



チューリップなどが咲いていました<深谷中央2号公園にて>



### 障がい児など誰もが楽しめる魅力ある公園づくりを

公明党 三谷 小鶴

●魅力ある公園づくりについて  
Q 障がい児でも遊べる、インクルーシブの視点で遊具を導入しては。また、ボール遊びができる公園の考えは。  
A インクルーシブの視点は、今後の公園づくりに必要と考える。先進事例を参考に研究したい。また、ボール遊びのできる公園は、地域が主体となり、ルール作りや合意形成などが整えば検討する。  
Q 公園情報を発信するアプリである、パークフルを使い、公園の魅力を発信しては。  
A 県が一部の公園情報を掲載しているが、本市でも新たな情報発信の手段として、前向きに検討したい。

●夜間中学について  
Q 夜間中学はさまざまな人の学び場となっている。他自治体からも生徒を受け入れる夜間中学が相模原市に開校するが、準備と周知方法は。  
A 広域的な仕組み作りなどを行う協議会で準備を進めている。チラシやアンケートなどが対象者が入りやすい場所に配架している。  
●市民の暮らしと生活を守る取組について  
Q 市は飲食店の支援でクーポン事業を行っているが、さらなる支援として、他業種への給付金を支給しては。  
A 給付金による一時的な支援ではなく、誘客促進や新規顧客の獲得につながる支援策を検討している。



### 保健所で対応しきれない自宅療養者へ市からも支援を

日本共産党 上田 博之

●市民の疑問と期待にこたえる新型コロナ対策を  
Q 本市は駅も繁華街もなの中で、人口比率の感染率が県内で最も高かったが、原因をどう分析しているのか。  
A 感染症の発生状況や動向の把握、原因の調査は、法律で都道府県が行うこととされているため、市では調査を行っておらず、感染が多い原因は、特定できていない。  
Q 自宅療養者の数を把握しているのか。また、他市では食料の購入代行などを行っているが、本市の支援は。  
A 自宅療養者の情報は県から提供されないため把握していない。県が療養期間中の健康管理などを適切に行って

いると認識している。また、市では感染症の疑いがある場合などの相談に応じている。  
Q 公民館などを休館せずに済むよう、従来の感染防止対策に加え、救急車の消費や使われる除染剤D7の活用やアクリル板の設置をしては。  
A 有効性を確認し、閉館せず利用できる環境をつくれるかを調査、検討していく。  
●今こそ35人以下の少人数学級を一気に実現するとき  
Q 学校現場の努力で、少なくとも小学5年生まで35人以下学級を実現できないか。  
A 実現できるかは、教職員の加配状況による。国の法改正で、段階的に小学校全学年が35人以下学級となる。



### 子育て世代が魅力を感じる施策の展開と拡充を

日本共産党 松本 春男

●学校給食の無償化と小児医療費の拡大を実施しないか  
Q 子育て世代が魅力を感じ、住み続けてもらうため、給食の無償化を実施しないか。  
A 給食の食材料費は学校給食法で児童・生徒の保護者負担としているため、現時点で無償化の考えはない。  
Q 小児医療費助成の対象を18歳まで拡大させないか。  
A 財源は限られており、事業が継続可能か十分検証する必要があるため、現時点では対象年齢の拡大は難しい。

●経済的理由で就学困難な児童・生徒への就学援助費の令和3年度認定見込みは。  
A 1億9700万円を予算計上しており、約30%の認定率を見込んでいる。  
●厚木基地を使用した米陸軍の化学、生物、放射線及び核(CBRN)対応訓練に反対しないか  
Q 核兵器などの使用を想定した訓練に反対しないか。  
A 訓練で危険物は持ち込まず、基地周辺に影響はないと説明を受けているが、引き



市の木「やまもみじ」

続き動向を注視していく。  
●米軍基地の事故・事件と厚木基地の使用について  
Q 厚木基地所属の軍人などが関係する事故や事件の発生状況を把握しているか。  
A 近年、重大な事故や事件は発生していないが、引き続き、基地関係者への綱紀粛正の徹底を求めていく。



### 少子高齢人口減少社会での職員の人材確保に向けて

創政会 橋川 佳彦

●職員の人材確保と職場環境の整備について  
Q 少子高齢化などで人材確保が難しくなっている。職員採用の課題と対応策は。  
A 受験者が減る中、本市が選択されるには差別化が必要である。フレックスタイム制など制度面の拡充を図り、人材確保につなげたい。  
Q 市のネットワーク環境に接続可能なリモートワークでは、特に個人情報漏えいを不安視する声があるが、情報セキュリティ対策は。  
A 技術面では、自宅と庁内間の通信は暗号化で保護され、漏えいなどのリスクはない。制度面では、個人情報などへの接続を禁止するルール

を作成しており、機密情報を扱う内容の勤務はできない。  
●ごみ行政の取組状況と課題について  
Q 生ごみは、家庭系ごみの約42%を占め、比率が高くなっている。削減が重要だが、対策は。  
A 水分を絞ることで減量化が図られる。生ごみ処理容器で約7分の1に減量できるため、購入費補助制度を周知し活用を推進していきたい。  
Q 資源物収集場所の当番は、高齢化などにより負担が大きくなってきているが、課題をどう捉えているのか。  
A 負担は承知しており、籠の軽量化などを検討するとともに、他自治体の状況を情報収集し、研究していく。

### 議会用語のミニ知識

#### 「表決」

表決とは、議会の意思決定に議員が参加するための手段で、賛成、反対の意思表示をすることをいいます。

このように、議長が表決をとることを「採決」といい、表決の結果得られた議会の意思決定(例えば可決、否決、同意など)を「議決」といいます。したがって、表決は、議会の審議過程における最終手続になります。表決の方法には、大別すると議長が議題に関して賛成する者を起立させ、その多少を認定して行う「起立表決」と起立者の多少を認定しがたい場合に行う「投票による表決」、議長が異議の有無を諮る「簡易表決」の3つがあります。本市議会においては、通常「起立表決」と「簡易表決」が多く用いられています。

